

2012年9月期 第2四半期

決算説明資料

(2011年10月-2012年3月)

株式会社FPG

(code:7148)

東証2部



2012年4月

2012年9月期上半期 業績ハイライト	P3
各四半期の売上高偏重傾向について	P4
2012年9月期上半期 レビュー	P5
2012年9月期上半期 営業面総括	P6
2012年9月期上半期 トピックス	P7-8
2012年9月期上半期 損益計算書	P10
2012年9月期第2四半期末 貸借対照表	P11
2012年9月期第2四半期末 キャッシュ・フロー	P12
2012年9月期 通期業績予想について	P14
2012年9月期 通期業績予想について（補足）	P15
2012年9月期 業績予想達成に向けての施策	P16

2012年9月期 上半期 業績の総括



2012年9月期上半期 業績ハイライト

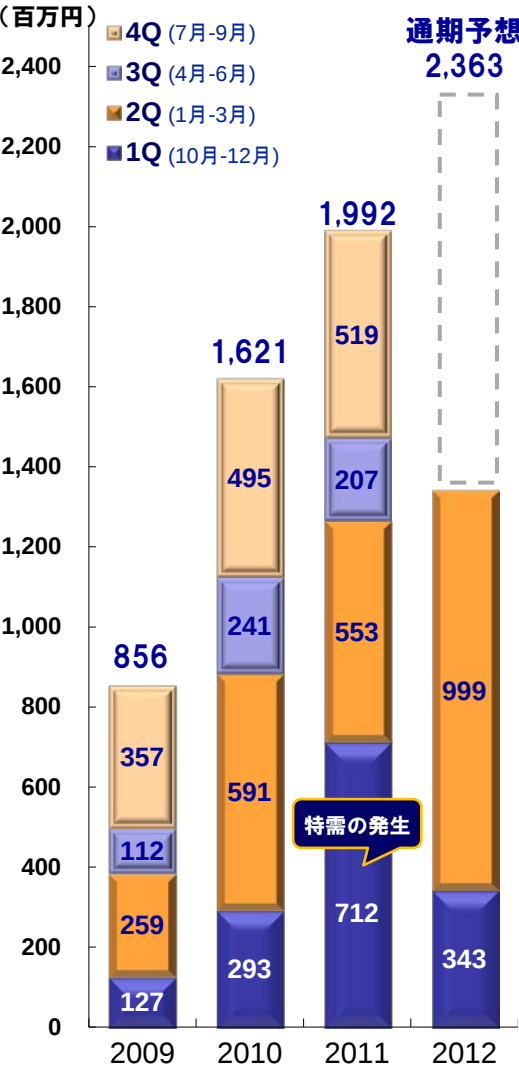
法人税減税を背景とした高い投資家需要のもと、3月決算をむかえる投資家を中心に税の繰り延べニーズをくみ取り、高じて好調な販売環境であった。結果、売上高は前年同期実績を上回った。

利益面においては、主に人員増強にかかる業容拡大コストにより、前年同期を下回る結果となったものの、上半期当初業績予想を上回り、2012年4月9日に上方修正を行った。

【百万円】	2012年9月期 上半期 10月～3月	2012年9月期 上半期 10月～3月	対予想 増減	対予想 増減率		2011年9月期 上半期 10月～3月	対前年 同期 増減
	当初予想	実績				実績	
売上高	1,127	1,342	215	19.1%		1,265	76
営業利益	534	701	166	31.2%		758	△ 57
経常利益	488	649	161	33.1%		713	△ 63
四半期 (当期) 純利益	284	377	93	33.0%		416	△ 38

各四半期の売上高偏重傾向について

当社の各四半期会計期間の売上は、当社案件に投資していただく投資家の決算月(9月・3月決算)が集中する、当社の第2四半期及び第4四半期に偏重する傾向があります。



(単位:百万円)	第1四半期 会計期間	第2四半期 会計期間	第3四半期 会計期間	第4四半期 会計期間	通期
	10月から12月	1月から3月	4月から6月	7月から9月	合計

2010年9月期					
売上高	293	591	241	495	1,621
売上高割合	18.1%	36.4%	14.9%	30.6%	100%

2011年9月期					
売上高	712	553	207	519	1,992
売上高割合	35.7%	27.8%	10.4%	26.1%	100%

2012年9月期					通期予想
売上高	343	999			2,363
売上高割合	14.5%	42.3%			100%

リース事業の損益は課税の繰り延べ効果を生じさせるために、リース期間の前半に赤字となるように設計されており、投資家は、リース事業への出資により当該事業で発生する損益を、自己の決算に取り込むことができます。

投資家が課税の繰延べ効果を楽しむためには、リース事業の初回分配期日までに、出資を行っておく必要があり、リース事業に出資するか否かの意思決定は、投資家自身の業績動向が判明する、決算月近くに行われる傾向があります。

結果として投資家の引き合いは、当社案件に投資していただく投資家の決算月(9月・3月決算)に集中することから、当社の第2四半期及び第4四半期に売上が偏重する傾向があります。

営業面

タックス・リース・ アレンジメント事業

- ▶ 需要の集中する3月決算を見越し、積極的に組成を行うとともに、1Qに組成した案件の販売に注力
 - ➡ 法人税の引き下げを背景とした需要の取込み、また、大口投資家、復興特需による税の繰り延べニーズ等も散見され、結果、2Qにおける出資金販売額は過去最高の8,959百万円へ。
- ▶ 欧州及びアジア・パシフィック地域における一流航空会社2社と新規取引を開始
 - ➡ 市場規模の大きな航空機リースへの取組みを加速、収益拡大を目指す。
- ▶ 販売ネットワークの深耕・拡大を図るべく、新規顧客の獲得と既存顧客の維持・拡大に注力
 - ➡ 従来の税理士・会計事務所に加え、地方銀行等金融機関からの紹介が加速。
- ▶ 資金調達力が拡大
 - ➡ 資金調達力を駆使して、積極的にリース案件を組成。商品出資金残高は過去最高値に。
- ▶ 大宮支店開設準備室の開設（2012年4月9日発表）
 - ➡ 大宮を拠点として関東・東北・上越地域における更なる営業の拡充を企図。特に東北地域の復興特需の取り込みに注力、新規顧客の獲得を目指す。

事業 保険

- ▶ 3月末にかけてがん保険の税制改正の見方が強まり、駆け込み需要に対応。
 - ➡ 保険事業の売上が伸長、50百万円を計上。

管理面

取組み

- ▶ 営業部門の人員強化（オペレーティングリース、保険、M & Aアドバイザリー部門）
 - ➡ 人員を増員（前期末33名⇒当四半期末46名へ）

2012年9月期上半期 営業面総括

組成環境

◆良好な組成環境 組成金額は34,357百万円へ

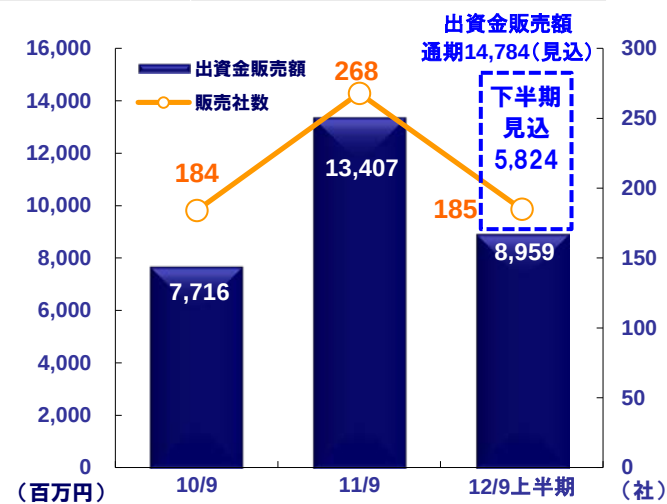
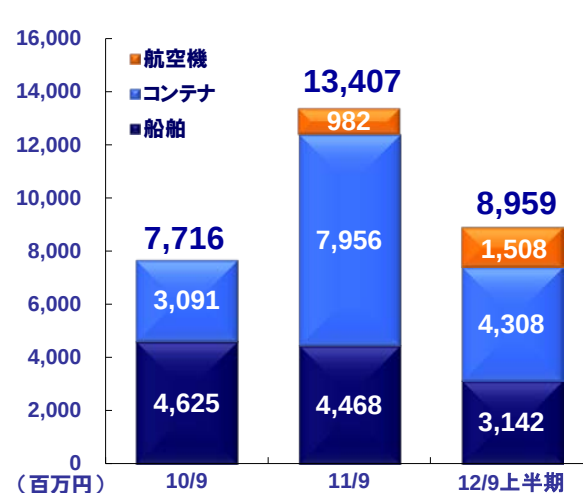
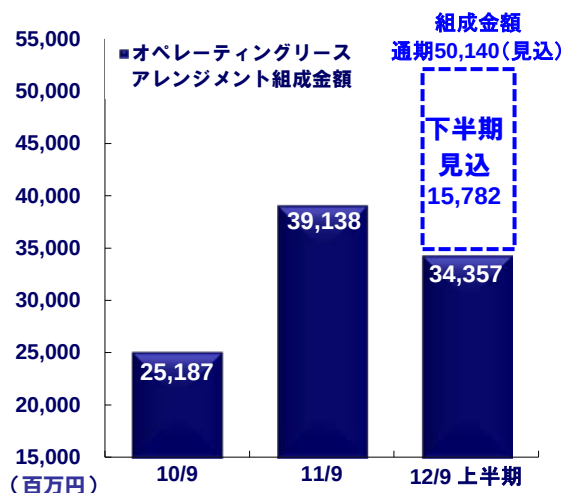
資金調達力が拡大し、積極的にリース案件を組成、2件の航空機リース事業をスタート。

販売環境

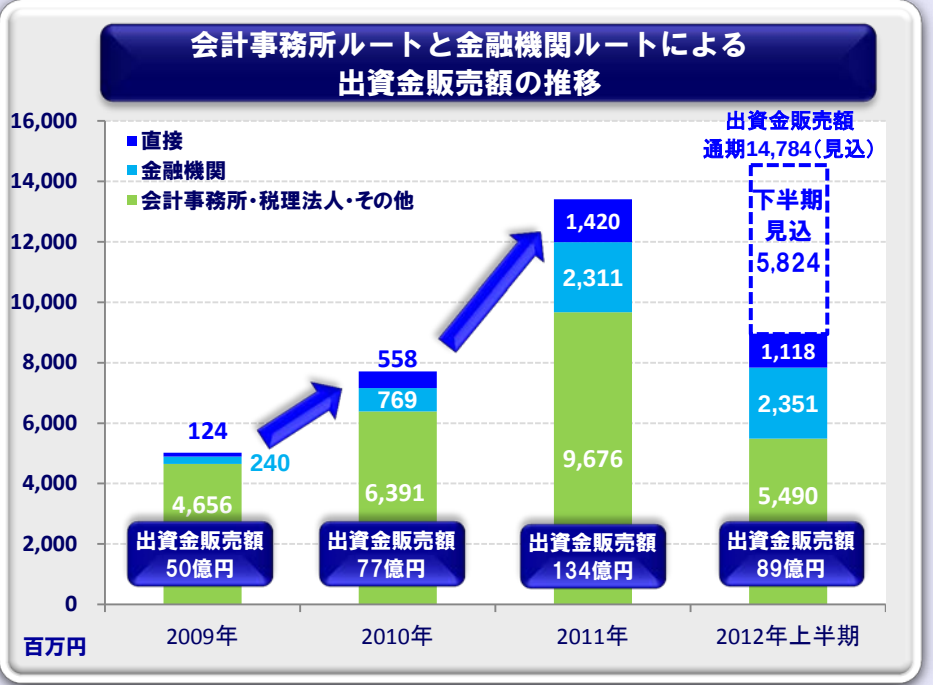
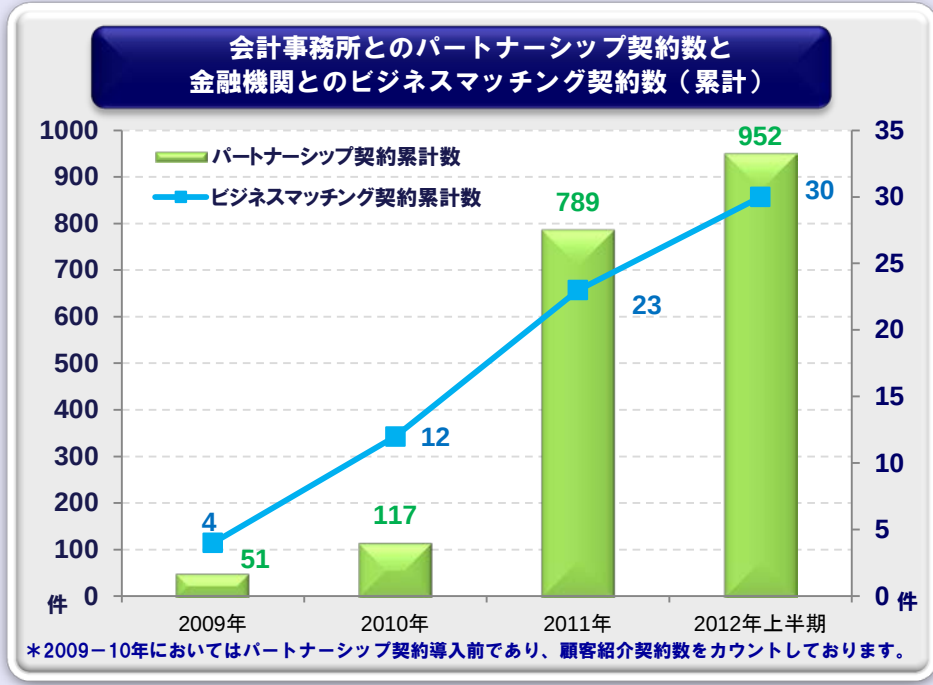
◆好調な販売環境 出資金販売額は過去最高の8,959百万円へ

法人税減税を背景とした中小企業からの引き合いは強く、旺盛な投資家需要に対応。
また、従来の会計事務所に加え、金融機関からの紹介が加速、販売チャネルが拡大。

(百万円)	2011年上半期	2012年上半期	増減	2011年9月期 通期実績
オペレーティングリース アレンジメント組成金額	15,150	34,357	19,206	39,138
出資金販売額	8,387	8,959	572	13,407
	船舶	3,142	△ 1,055	4,468
	コンテナ	4,308	119	7,956
	航空機	1,508	1,508	982
販売社数(件数)	165	185	20	268
タックス・リース・アレンジメント売上高	1,255	1,283	28	1,926
手数料 (売上／出資金販売額)	15.0%	14.3%	△0.7%	14.4%



- ◆全国の会計事務所とのパートナーシップ契約を積極推進、販売網を拡充
- ◆金融機関、特に地銀との提携（ビジネスマッチング契約）により投資家紹介が加速



2012年9月期上半期 トピックス



資金調達力の拡大

2012年1月に三菱東京UFJ銀行から9.6億円の
新規借入を実施

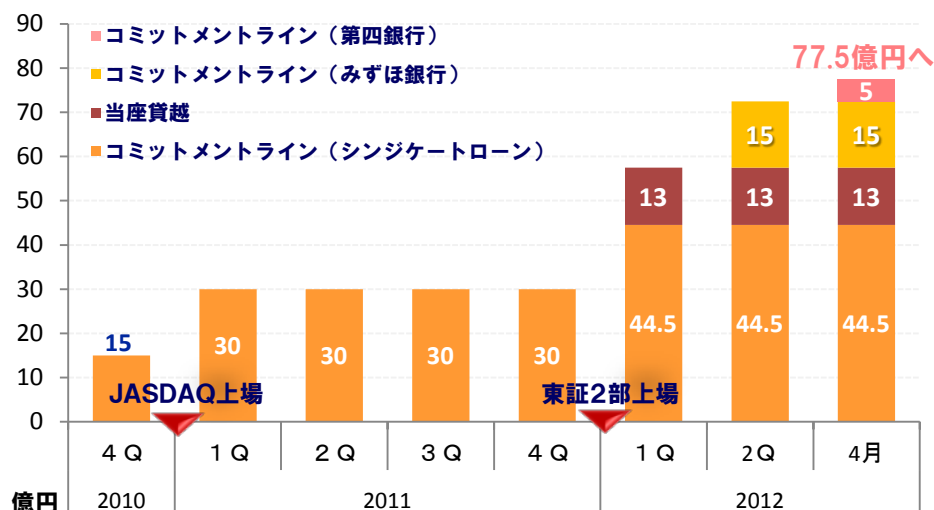
コミットメントラインの拡大

◆ 2012年1月26日 みずほ銀行と15億円

◆ 2012年4月13日 第四銀行と5億円

上記コミットメントライン融資枠契約を締結

資金調達力向上に伴い組成案件の規模拡大、
一度に複数の案件組成が可能に。



*三菱東京UFJ銀行からの新規借入については含んでおりません。
*4月末時点のデータ



株主優待制度の開始

◆ 株主優待の内容

対象株主：

毎年9月末及び3月末現在の株主名簿に記載された当社株式
1単位（100株）以上保有の株主様を対象に年2回実施

優待内容：

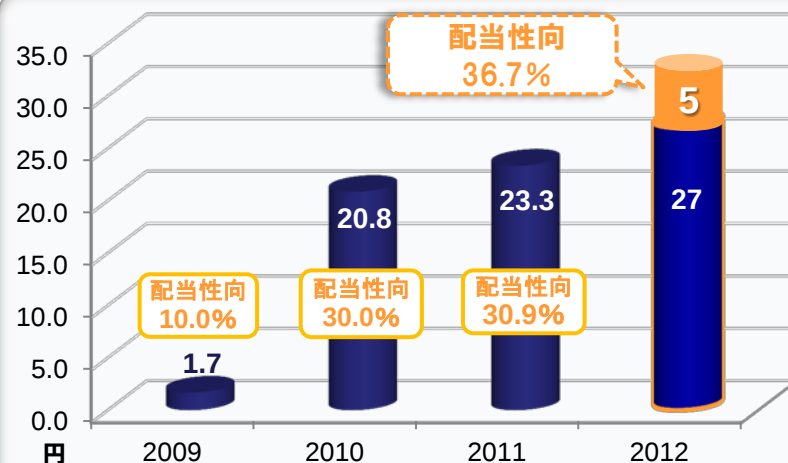
保有株式 100株以上1000株未満→1,000円相当のクオカード1枚

保有株式 1000株以上につき→3,000円相当のクオカード1枚



中間記念配当を実施

◆ 設立10周年及び東証2部への上場を記念し、5円増配
2012年9月期 通期配当予想は32円へ



(注)株式分割の影響を調整しております。

2012年9月期第2四半期 財務ハイライト



2012年9月期上半期 損益計算書

(千円)	2011年上半期	2012年上半期	増減
売上高	1,265,455	1,342,433	76,978
売上原価	171,603	188,103	16,500
売上総利益	1,093,851	1,154,330	60,478
販売費及び一般管理費	335,403	452,889	117,485
営業利益	758,448	701,440	△ 57,007
営業外収益	13,622	51,606	37,983
受取利息	10,789	37,068	26,278
為替差益	878	12,896	12,017
その他	1,954	1,641	△ 313
営業外費用	58,898	103,068	44,170
支払利息	5,379	50,863	45,483
支払手数料	51,558	52,205	646
社債発行費	1,959	-	△ 1,959
経常利益	713,173	649,979	△ 63,193
特別損失	6,490	-	△ 6,490
固定資産除却損	127	-	△ 127
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,362	-	△ 6,362
税引前四半期純利益	706,682	649,979	△ 56,703
法人税、住民税及び事業税	224,507	360,325	135,818
法人税等調整額	65,847	△88,330	△ 154,177
法人税等合計	290,355	271,995	△ 18,359
四半期(当期)純利益	416,327	377,983	△ 38,343

1 売上高 1,342百万円(+76百万円)
 タックス・リース・アレンジメント事業における売上 1,283百万円
 その他事業における売上 59百万円
 (保険仲立人事業において50百万)

2 売上原価 188百万円(+16百万円)
 紹介者への支払手数料 146百万円
 組成コスト41百万円
 リース事業の組成金額の拡大に伴い、組成コストが増加

3 販管費 452百万円(+117百万円)
 業容拡大に伴う人員増強による人件費*の増加(66百万円)、東証2部への新規上場に伴うコスト
 * 採用コスト含む

4 営業外収益 51百万円
 投資家から収受している商品出資金の立替利息である受取利息37百万円、為替差益12百万の計上によるもの

5 営業外費用 103百万円
 商品出資金の増加に伴い、資金調達額が拡大、支払利息50百万円及びシンジケートローン等の支払手数料52百万円を計上

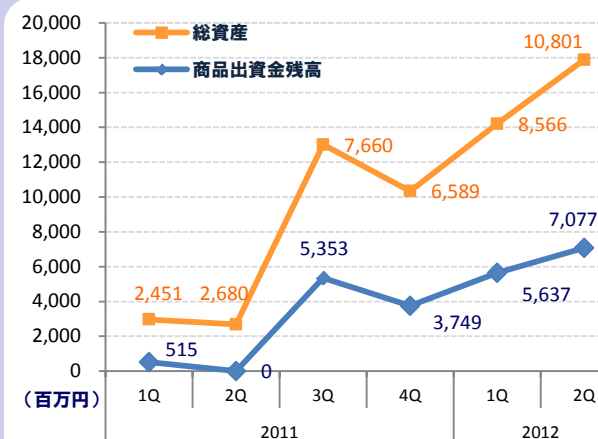
資産 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第2四半期末	増減
流動資産	6,209	10,405	4,196
現金及び預金	2,226	2,854	627
商品出資金	3,749	7,077	3,328
その他流動負債	233	473	240
固定資産	380	395	15
投資その他資産	284	298	14
その他固定資産	96	97	1
資産合計	6,589	10,801	4,211
負債 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第2四半期末	増減
流動負債	4,539	8,456	3,917
短期借入金	3,637	6,601	2,963
1年内返済予定の長期借入金	10	354	344
前受金	461	735	274
その他流動負債	429	764	335
固定負債	91	180	89
長期借入金	0	100	99
その他固定負債	90	80	△ 9
負債合計	4,630	8,637	4,006
株主資本 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第2四半期末	増減
資本金	334	334	-
資本剰余金	284	284	-
利益剰余金	1,340	1,545	205
自己株式	△0	△0	△0
純資産合計	1,958	2,163	205
負債純資産合計	6,589	10,801	4,211

① 商品出資金+3,328百万円

資金調達力の向上及び好調な出資金販売環境の中、積極的に案件を組成。3Q、4Qの投資家需要に備え、商品出資金を積増。

商品出資金の増減により
バランスシートは大きく
変動。総資産が拡大。

商品出資金とは・・・
リース事業を組成し、
主にコミットメントライン
融資枠により調達した
資金を活用し、一時的
に出資金持分を立替え
た際の出資金。



② 商品出資金の取得原資である借入金の増加

■ 短期借入金が2,963百万円増加。

■ 長期借入金_{*}が443百万円増加。

* 1年内返済予定の長期借入金含む

③ 前受金+274百万円

商品出資金の増加に伴い前受金も増加。
第3四半期以降商品出資金の販売に応じて、前受金を売上計上。

④ 純資産 +205百万円

四半期純利益377百万円を計上したものの、前期末の配当の支払いとして172百万円を充当。

(百万円)	2011年9月期 第2四半期末	2012年9月期 第2四半期末	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,522	△2,522	△4,045
投資活動によるキャッシュ・フロー	△66	△26	39
財務活動によるキャッシュ・フロー	234	3,176	2,942
現金及び現金同等物残高	2,174	2,854	

1 営業CF

好調な販売環境を背景に、積極的に商品出資金を積増し。営業活動において使用した資金は2,522百万円。前年同期は、主に商品出資金の販売により、1,522百万円の資金を取得

2 投資活動によるCF

主にオペレーティング・リース事業を行うSPCとして利用するため等の子会社株式の取得により、投資活動において使用した資金は26百万円、前年同期は、66百万円の資金支出

3 財務活動によるCF

主に商品出資金の取得のための資金調達が増加したことから、財務活動において得られた資金は3,176百万円、前年同期は234百万円の資金収入

2012年9月期 通期業績予想



(百万円)	2012年9月期		2012年9月期	通期業績予想 進捗率
	上半期 (実績)	下半期 (予想)	通期予想	
売上高	1,342	1,020	2,363	56.8%
営業利益	701	461	1,163	60.3%
経常利益	649	463	1,113	58.4%
四半期 (当期) 純利益	377	268	646	58.4%
リース事業組成金額	34,357	15,782	50,140	68.5%
出資金販売額	8,959	5,824	14,784	60.6%

2012年9月期の通期予想については、当第2四半期において、旺盛な投資家需要に対応するため第3四半期以降に販売予定であった出資金の一部を前倒して販売。

現時点においてはリース事業の組成及び販売は順調であるものの、経済環境に不透明感が残ることなどから、当該環境を保守的に勘案し、業績予想を据え置き。

2012年9月期 通期業績予想について（補足）

(百万円)	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	1,265	727	1,992	1,342	1,020	2,363
売上原価／販管費	507	449	956	640	558	1,199
営業利益	758	277	1,035	701	461	1,163
経常利益	713	254	967	649	463	1,113
四半期（当期）純利益	416	141	557	377	268	646
出資金販売額	8,387	5,019	13,407	8,959	5,824	14,784
商品出資金	—			7,077		
前受金	0			735		

2Q期末の
商品出資金を
積み増し、下半期
の需要に対応

2011年 上半期

1Qにおける特需の発生により、
2Qに販売予定分の商品出資金
を前倒して販売。
2Qの組成環境が厳しかったこと
もあり、案件組成が伸びず、
2Q期末時点で、商品出資金が
すべて完売

↓
商品出資金の販売によって売上
計上される前受金もゼロ

2011年 下半期

売上、利益ともに
上半期を下回る
結果に

2012年 上半期

売上高は前年同期を
上回ったものの、
利益面においては
主に人員増強による
業容拡大に伴うコスト
増を吸収しきれず、
前年同期を下回った。

2012年 下半期

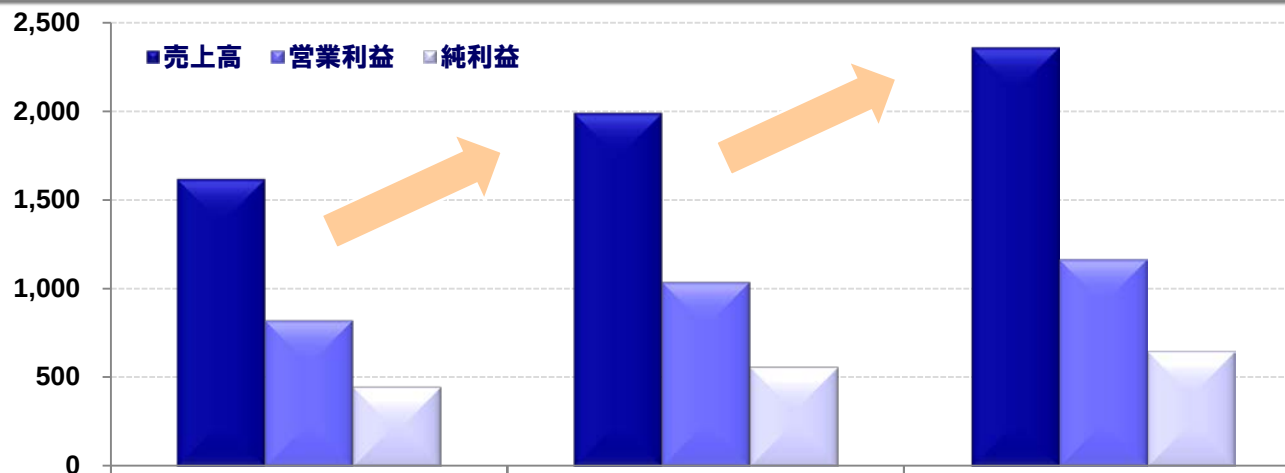
人件費等の費用は前年同期に
比べ増加する見通しであるものの、
売上高の増加が費用の増加分を
吸収する見込みのため、
売上・利益ともに、
前年同期よりも増加する見通し。

結果、通期においても
増収増益となる見込み。

3期連続の増収増益へ 引き続き2桁成長を目指す

施策

- 利益率の高い海外案件を中心に積極的に案件の獲得、組成に注力
- 地銀等、金融機関とのビジネスアライアンス及び会計事務所とのネットワークの深耕拡大を通じた顧客の維持・獲得
- 保険仲立人事業、M & A 事業においても収益獲得を目指す



(百万円)	2010		2011		2012	
	実績	対前年増減率 (%)	実績	対前年増減率 (%)	予想	対前年増減率 (%)
売上高	1,621	+89.3	1,992	+22.8	2,363	+18.6
営業利益	821	+166.8	1,035	+26.0	1,163	+12.3
純利益	444	+344.8	557	+25.4	646	+16.0

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG 総務部

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>

